



緊急地震速報の導入について

本学では「緊急地震速報」を長久手・星が丘両キャンパスに導入しています。

1 緊急地震速報の受信

気象庁から緊急地震速報が本学に配信され、震度と猶予時間をただちに予想します。

2 大きなゆれがくる前に

緊急地震速報により震度5弱以上と予想された場合

緊急地震速報により、それぞれのキャンパスにおいて震度5弱以上のゆれが予想された場合には、防災放送設備が自動的に起動し、全学一斉にサイレンが鳴り、引き続き「地震がきます」の緊急放送が流れます。

退避行動

大きなゆれがくるまでの時間は震源の位置によって異なりますが、サイレン・緊急放送からゆれがくるまで数秒から十秒程度と予想されています。場合によっては間に合わない場合もあります。サイレン・緊急放送があった場合、各自で身の安全を図ってください。

キャンセル報、または大きなゆれが起こらなかった場合

キャンセル報が届いた時、または大きなゆれが起こらなかった場合には、その後の対応を放送し、避難は中止します。

退避行動の例

屋内

- 机の下に身を隠し、落下物から身を守る。
- 火を消す。
- 出入り口やドア・窓を開けて避難口を確保する。
- 薬品など危険物から離れる。
- あわてて外に飛び出さない。

屋外

- 壁や建物から離れ落下物から身を守る。
- 自動販売機など転倒危険物から離れる。

3 大きなゆれがおさまったら

キャンパスでの避難行動

- **学生**
授業中の場合は担当教員の指示に従い、「避難場所」へ避難してください。授業以外の学生も各自、「避難場所」へ避難してください。
- **教職員**
授業中の教職員は避難経路図に従い、学生を「避難場所」へ誘導してください。その他の教職員は誘導を手伝い、「避難場所」に避難してください。業者は各自、「避難場所」に避難してください。

救護活動 負傷者はキャンパス内に開設される「救護室」に集まります。自力での移動が困難な人を見つけた場合、学生・教職員は協力して救護にあってください。

帰宅準備 安否確認後、学生・教職員(対応要員以外)は大学の指示に従って帰宅します。帰宅困難者は、キャンパス内に開設される「第2避難所」あるいは「宿泊避難所」での待機となりますので、指示に従って移動してください。

避難場所での行動

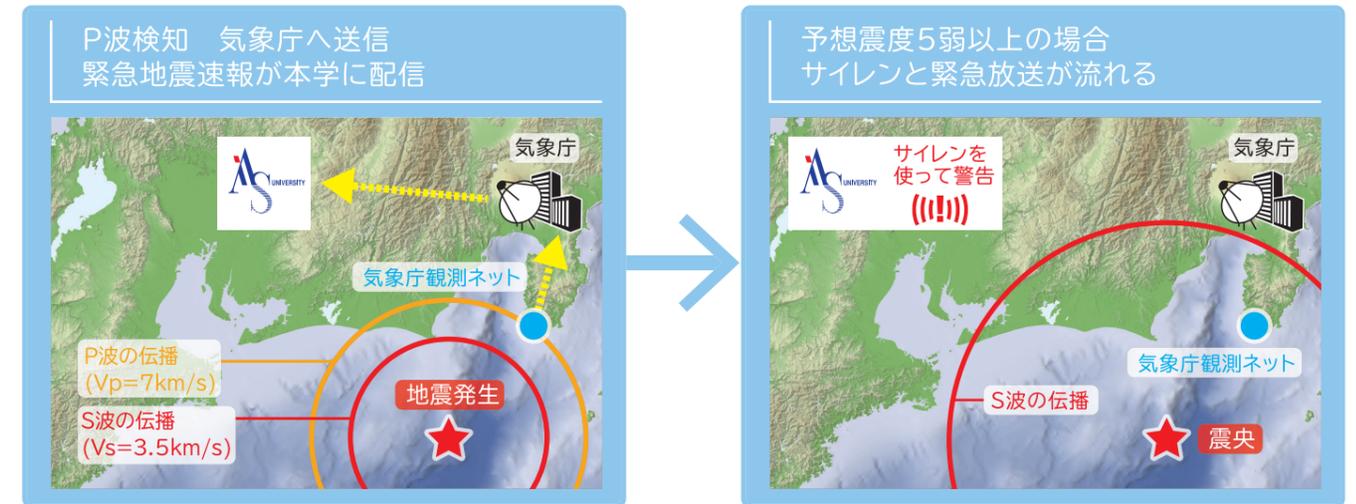
- **学生**
学科・専攻ごとに集合して、教員の指示に従って整列してください。点呼により、安否の確認を行います。
- **教員**
専任教員は学科・専攻ごとに定められた場所に学生を誘導し、点呼により学生の安否を確認してください。
- **職員**
特定の任務を負わない職員は避難場所に集合後、本部の指示によってその後の任務についてください。

緊急地震速報とは？

地震による大きなゆれがやってくる前に、地震の発生を知らせてくれる報知システムです。

地震発生後、震源近くの地震波をとらえ、ただちに決定した震源位置、地震規模(マグニチュード)が気象庁から本学に配信され、震度と地震波の到達時刻を計算し予想するものです。

長久手・星が丘キャンパスで震度5弱以上の地震が予想された場合、全学放送を通じて学生・教職員に地震の発生を知らせます。

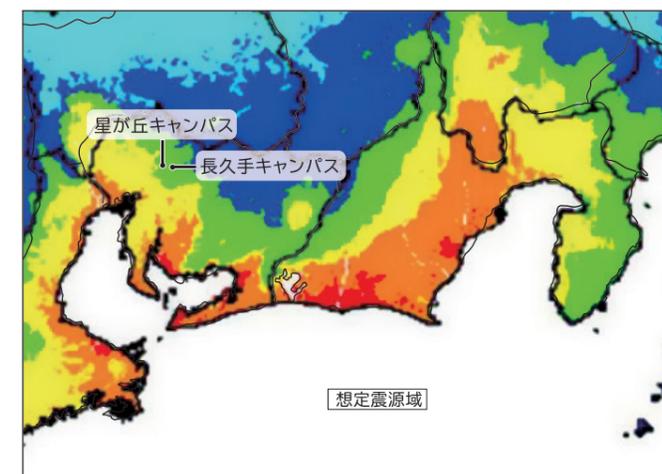


緊急地震速報には限界があります！

緊急地震速報には、次のような限界があることをよく理解して行動しましょう。

- 誤報が流れることがあります。 ○ 震度は予想値です。
- 緊急地震速報が報知されない場合や、間に合わない地震もあります。

南海トラフ巨大地震の震度分布図



※内閣府HPより、一部加筆

南海トラフ巨大地震が発生した場合、本学では震度5強以上のゆれが予想されます。各自、自宅のゆれを、左図で確認しましょう。

- 震度
- 7 耐久性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある
- 6強 はわないと動くことができない
- 6弱 立っていることが困難になる
- 5強 物につかまらないと、歩くことが難しい
- 5弱 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる
- 4 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる

※気象庁/震度と揺れ等状況(概要)より